

っており、食べてみてもいちばん甘いことにも注目してください。

収穫物の大きさ・収量と、おいしさ・品質の両立、あるいは肥料の有効活用というねらいからは、堆肥2t+化学肥料補正区が優れています。堆肥2t+化学肥料全量区は、堆肥からと化学肥料からの合計窒素が多いため、玉は大きくなっても品質がわずかながら劣ったといえます。球を充実させる外葉を見ると、右上の写真のように、窒素の多い区は緑が濃く葉が垂れて軟弱そうなのに対して、下の化学肥料補正区は鮮やかなグリーンでピンと立ち、活力の高さを示しています。これが、球の大きさとおいしさにつながっているのです。

したがって、堆肥で根づくりをすすめながら、堆肥の成分と肥料の成分を合わせて、標準的な施肥量となるように施すのが基本といえます。



窒素の多い区は、葉が黒みがかった緑で垂れている



堆肥 2t + 化学肥料補正区は、葉が鮮やかなグリーンで立っている

堆肥と肥料の組み合わせ方でキャベツの収量・品質が変わる

	球重 (kg)	糖分 (%)	ビタミン C (mg/l)
A 堆肥 2t + 化学肥料補正	2.2	7.4	50
B 堆肥 2t + 化学肥料全量	2.5	6.6	32
C 化学肥料 (化成肥料) のみ	2.0	7.3	23
D 堆肥のみ 4t	0.9	8.4	75

- 堆肥は美土里たい肥
- 窒素施用量
 - A、C は 20kg/10a
 - B は堆肥に化成肥料 20kg を上乗せ
 - D は堆肥のみ (可給態窒素量 4.6kg/10a)

